

Human Science and Development 研究会

〒321-395 栃木県宇都宮市竹下町 908 番地 作新学院大学 田所研究室内
E-mail:kachejinkai@sakushin-u.ac.jp URL:http://www.jahsd.com

**代表就任のご挨拶****HSD 研究会 代表 松本浩二**

人ならず、犬や猫などレム睡眠とノンレム睡眠が見られる動物は、夢を見るらしい。人間以外は、あくまでも動物達も夢を見ているとし、現在、研究中とのことである。

一方、私も一応ヒト科に属するので、こんな初夢を見た。医療機関のセミナー室で私を含め 60 人位の一般人が心理学者の話の聞いている。すると、ベテラン看護師が出てきて、看護師の方が大事な存在と力説する。会場が騒然とする中、私も持論を展開。「何が大事か、それは看護も心理もまた医師も同様に大事であり、一番大事なものは家族(親)である。そもそも看病なり簡単な治療は親がやっていた。優しく背中をなでたり、指に刺さった棘を『ちょっとあっちを見て』などと声をかけ指から注意をそらしている間に抜いたり、さまざまな知恵と共に行ってきた」などと話している夢だ。

このように、人は自分の持っている様々な経験からくる知識を引っ張り出して行動につなげてきた。しかし、今はどうであろう。人々は経験と共に培ってきた知識や情報を生かすよりも、PC やスマートフォンなどで自分の外にある情報をいとも簡単に見つけ出して活用する時代となった。「本当なのだろうか」と考えることもなく、外にある情報を鵜呑みにし、検証しようとしめない。頭の使い方が変わったのである。それにより、人の体験や知識はどんどんその人自身から離れたものとなる。また、自分への感覚を鈍くするだけでなく、他者を思い想像する力やそもそも他者への関心が低くなる。さらには、相手への思いを勝手に巡らす一方で、目に見えない相手の思いに不安や不信を大きくすることもあろう。一見、快適と思われる社会生活も不安と混沌の中に追いやられてしまう。

目の前で起きている実態から離れ、外の情報により多く頼ることで、主体的に考える機会も減る。何かあれば、「何かにそう書いてあったから」など他人事になる。自分がしたことではないからである。これでは自分の人生を生きているとは言えないであろう。しかし、私たちはこの社会に生きており、自分が何かを選びとり実際に行動しているのである。

だからこそ、一人ひとりが自分の人生を取り戻すべく、変動する社会に生きるその人に焦点を当てたカウンセリング心理学が必要だと考える。カウンセリング心理学は、変動する社会に生きる人に焦点を当てた学問だからである。そしてその介入方法の一つとしてカウンセリングがあり、一人ひとりが現在やこれからを自分らしく生き生きと生きるための建設的な意思決定ができるように支援する。変動する社会と個々人に目を向けた支援を行うことで、社会に翻弄されたり埋没することなく自分が今に生き、物事をなす主体者であり社会の一員であることの認識を新たに意思決定していく。

なお、HSD 研究会には、産業、福祉、教育、医療など様々な分野の方々が参加されている。それぞれの現場に即した形での支援を科学的に模索し、より良い形で具体化して欲しい。そのため会員同士が時に刺激しあい、励ましあうなど切磋琢磨し、社会に役立つ研鑽の場となることを願っている。

最後に付しておかねばならないのは、本研究会の発起人が田所氏であることだ。彼はカウンセリング心理学者として研究、臨床、教育など、活動は多岐にわたる。常に社会の中での自分の役割を科学的に捉え、まさにカウンセリング心理学の類いまれなる現代の革命家とも言えよう。私は、彼が直接弾を受けないための防弾チョッキである。

それにしても、本研究会が発足する等ということは、夢ではなからうか。現実のものとして進めていくためには、会員一人一人が主体的かつ積極的に活動し、自己満足に終わることなく、カウンセリング心理学を社会に有用なものとならしめることである。勇気を持って変化を促す一人ひとりとなる。これが本研究会に求める筆者の思いである。

新入会員紹介



小池美嘉(ひまわりメイト指導員)

この春、大学院を修了し、臨床家の卵として新たな一歩を歩むこととなりました、小池です。気づけばあっという間に過ぎてしまった大学院生活ですが、振り返るとたくさんの思い出が詰まっており、私にとって非常に濃密な2年間でした。

私は田所先生のもと、カウンセリング心理学を中心に学んできました。先生との出会いは遡ること、学部2年生の頃になりますが、当時の私は臨床心理士とカウンセラーの区別もつかない程の無知だったことを今でも覚えています。「悩んでいる人の役に立ちたい」ただその一心で大学院を目指していましたが、臨床家として人と向き合うことの意味を理解するどころか、そんなことを考えたことさえありませんでした。

「臨床家としての覚悟」を考えるようになったのは、恥ずかしながら、正直最近のことです。大学院に入っても、1年目はまだまだあまちゃんでした。学部4年生から参加していたカウンセリングロールの勉強会も、カウンセラー役を敬遠し、様々な理由をつけて欠席したり、夏に参加したカウンセリングロール合宿でも、未だに思い出すのが辛くなるほどの出来の悪さでした。ですが、どこかで自分はまだ1年目であり、上には先輩がいるのだし、できなくても仕方がないと甘えていた部分もありました。私の意識が変わり始めたのは、2年目になり、先輩達から学内ケースを引き継ぐようになったことがキッカケです。ロールではなく、初めて本物のクライアントを前にした時、学生と言えども臨床家として向き合わなくてはならないのだと強く感じました。また、引き継ぎということもあり、前任者の先輩と比較される立場になったことも大きかったです。

2年目の夏にはTCAの合宿、MLTにも参加しました。初対面の人達に対して自分を語る怖さを感じつつも、相手を知ろうとすること、自分を知ってもらおうとする作業の中で、自分自身の感情の変化を実感し、自分と向き合うこと、人と向き合うことを真面目に考えるようになりました。

大学院生活の中では、同期の仲間達と臨床活動を通して向き合った日々も、大きな糧になっています。悩みを共有し、時には言いづらいことをぶつけ合い、笑い合う、そんな人間としての喜びを感じられたことは、とても大切な経験であったと思っています。

カウンセリングロールでは、今でもカウンセラー役は敬遠したいところですし、最近では「聴く姿勢」が持てずにスランプに陥っていますが、今では、いつかは田所先生のように指導する立場になりたいと大それた夢も持つようになりました。

駆け出したばかりの未熟者ですが、大学院生活2年間の経験を胸に、臨床家としての道を歩んでゆきたいと思っています。これからどうぞ、よろしくお願い致します。



古賀智也(那須子どもの家指導員)

私が心理臨床を学んだ大学院での2年間は、自分自身と向き合うことの連続であった。出来ない自分を知り、落ち込み、この場から逃げ出したいという思いに駆られ、なぜ自分がこの場にいるのかという目的すら見失いそのようなこともあった。「覚悟はあるのか」これは臨床指導者の田所撰寿先生より、常に問われ続けてきた言葉である。この覚悟とは臨床家としての覚悟である。出来ない自分と向き合う覚悟、自分の問題と向き合う覚悟、この覚悟がなくして、人の悩みと真正面から向き合うことが、どうしてできようか。自分自身を理解しようとしていない者が、人をどうして理解できようか。臨床家とは、人の人生にかかわる、命にかかわる仕事である。中途半端な生半可な責任と覚悟ではできないし、やってはいけない。これはこの2年間自分自身へ問われたことでもあった。この問いは大学院の修了を迎える今現在も、そしてこれからも常に問い続け、問われ続けていくことである。

これから私は、臨床初学者であるが心理の一専門家として児童福祉の現場に立ち、人の悩みと真正面から向き合うこととなる。クライアントの前に立てば、初学者であろうが、無かろうが関係ない。そこに必要なものは、1人の人間としてクライアントと真摯に向き合う姿勢であり、臨床家としての責任と覚悟である。常に人として、臨床家としての研鑽を積み続けていきたい。そして、いつの日にか自身の得た経験と感動を、次の誰かに伝えられるようになりたい。



HSD 研究会に期待すること

HSD 研究会 監事 天利一步

いまや世界では和食が大ブームになっているそうです。小さな島国で培われた食文化が広く海外で愛されていることは日本人にとって誇らしい限りです。しかし残念なことに、海外では似非（我々日本人から見ると違和感を感じる）日本料理店も増えているそうです。そうした料理店は日本人以外の経営者によって経営され、中には日本料理を修行したどころか食べたことすらないなんて場合もあるそうです。しかもそうしたお店が大繁盛し、チェーン店舗化しているというから驚きです。日本の食文化が世界で注目されることは何よりですが、このような状態が続くと、将来的には、「なんちゃって」日本料理が世界にはびこり、本家である伝統的な和食は高級料亭でしか食べれないなんてことになるかもしれません。

さて、私はこうした亜流が本家にとって代わるようなことが、カウンセリング業界でも起こってしまうのではないかと危惧しております。和食が世界各国で人気を博しているように、カウンセリングを学ぶ人は年々増えており、しかもいろいろな業種に及んでいます。教育や援助関係の職種だけでなく、サービス業、営業職、人事担当、管理職、経営者、はたまた子育てなどの様々な分野で需要があり、各それぞれの職種に役立てようとカウンセリングを学んでいます。彼らの最大の関心ごとは、「いかにして他者を理解し、良好な関係性を築くか」ということに集約されると思います。そこで必要とされることはカウンセリング技術ばかりでなく、他者の本質を知り、理解するための「マインド＝心のあり方」が大事であると思います。しかしながら、小手先ばかりの似非カウンセリングが世に氾濫、蔓延している現状をみますと、カウンセリングの本質や哲学を学ぶことはなかなか難しいように感じます。こうした状況を生み出している原因は多々あるとは思いますが、憚りながら言わせていただく、カウンセリングを専門とする皆様にも責任の一端があるのではないかと思います。とかく専門家ともなると、自分の職場や専門分野に閉じこもってしまうものです。自分の培った技術や知識が、自分の元を訪れる相談者だけに通用すれば十分であると考えがちです。しかしそれでは、高級料亭と同じです。職人がお客を選んでしまっており、誠に敷居が高い。そんな店ばかりではもはや食文化とはいえません。たとえアレンジや大衆化されようとも、基本的な技術や核となる本質さえ失われなければ、家庭や町角の食堂、遠い異国で食べられるものだって立派な和食となるのです。ですので、カウンセリングを専門職とする方々はもっと個々の専門分野や職場から飛び出し、カウンセリングを必要としている異業種の人々と積極的に交流することが大事ではないかと思います。異業種と交流するにあたっては、まず共通言語である「カウンセリングとは何か」ということが明確でなければなりません。難しい専門用語は避け、できるだけ噛みくだいた言葉で明文化することが大事だと思います。本研究会においては実践的・科学的な研究活動を通して、カウンセリングの本質、概念が「共通言語化」され、さらには良質なカウンセリングが業種の垣根を越えて普及する促進剂的な役割を担えるよう期待しております。

学生たちの素朴な疑問・感想・思いつき

《このコーナーではカウンセラーを目指している大学生や大学院生からみたカウンセリングや心理学に対する素朴な疑問や感想をあげてもらおうと思います。彼らの素朴な意見を聞くことで、改めて多くの学びがあるのではないのでしょうか。》

「長老とカウンセラーの違いは何か。」以前、先生にそう尋ねられた。私は「長老は生きてきたうえで培った知識を持ち、カウンセラーは幅広い分野の知識を持っている」と答えたが、どうも答えは別にあるようで先生は「ふーん」と微妙な反応を残しただけであった。私はモヤモヤとしたものだけが残され、仕方なく家に帰り湯船につかって他の回答を考えてみた。しかし「長老はよぼよぼのおじいさん、カウンセラーは幅広い年代の男女」だとか「長老は民族衣装を身に着け、カウンセラーは襟のついた服を着ている」などのレックズ的な違いばかりしか頭の中に浮かんで来ることは無く、いまだにモヤモヤは解消されずじまいだ。皆さんは、「長老とカウンセラーの違いは何か」と尋ねられたら、どのような答えが思いつくのだろうか。(k.w.k.)

事務局より

《総会と講演会のお知らせ》

HSD 研究会第 1 回総会と講演会を以下の日程で行います。

日程：2016 年 5 月 8 日（日）

場所：作新学院大学中央研究棟 2F 第 1 会議室

13:00～13:30 HSD 研究会第 1 回総会

13:30～15:30 講演『社会において役に立つカウンセラーになるために』

講師 松本浩二（HSD 研究会代表）

※参加費は無料です

15:30～16:00 HSD 研究会が目指すもの 田所撰寿（HSD 研究会事務局長）

17:30～20:00 懇親会

※お申し込みまたはお問い合わせは事務局までお願いします

《第 2 回ロール合宿研修会のお知らせ》

ロールプレイで行うカウンセリング演習を 3 泊 4 日で行います。より高度な実習体験をし、よりよいカウンセラーになるための研鑽を積むのが目的です。

日程：2016 年 8 月 19 日（金）～8 月 22 日（月）

場所：大田原ふれあいの丘（栃木県大田原市福原 1411-22）

募集人数：26 名 参加条件：全課程の参加できる方

研修費：18,000 円（会員研修費）宿泊費・食費・雑費は別です

トレーナー：松本浩二（関東学院中学高等学校） 神村孝子（キャリアカウンセラー/CCA 認定スーパーバイザー）

田所撰寿（作新学院大学）

※お申し込みまたはお問い合わせは事務局までお願いします



みなさま こんにちは。事務局を担当しております作新学院大学の田所です。この研究会は実は 2015 年 1 月に組織され、細々と活動を行ってきました。この度さまざまな皆様のご協力をいただき、このような正式な研究会として立ち上げることができました。誠にありがとうございます。

実はこの会には別称があります。それは「カチェ人会」といいます。この名前にこの会の理念がすべて込められていると思います。紙面の関係上詳細な説明については割愛させていただきますが、松本代表と酒を酌み交わしながらこの会への期待を次のように話しています。「多くのものを打ち壊し、そして新しく創りあげていきたい」と。この研究会は今まであった学会や研究会とは全くの別物です。既成概念を打ち壊し、会員の皆様が皆主人公として活躍できる組織を目指していきたいと考えております。

Human Science and Development 研究会

〒321-395 栃木県宇都宮市竹下町 908 番地 作新学院大学 田所研究室内

E-mail:kachejinkai@sakushin-u.ac.jp [URL:http://www.jahsd.com](http://www.jahsd.com)

※ホームページやメーリングリストも是非ご利用ください！